

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：環境理工学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1 学部将来構想の検討 学部のミッション、強み、特色などについて点検・評価し、学部の将来構想について検討する。 2 入試制度の統一化 AO入試・推薦入試、前期日程個別科目などについて、学部として統一を図る。 3 勉学意欲の高い受験生の確保 高等学校訪問、高大連携事業の推進および積極的な広報活動の展開により、学部アドミッションポリシーに適った受験生確保に努める。 4 教育の質向上への取組 ビュアレビューの実施拡大や教員研修会の継続開催等のFD活動により教育の質向上を図る。 また、JABEE認定継続の取組などにより、学生の出口での質保証に努める。 5 実践型環境教育の充実 本学部教育の特徴の一つである実践型環境教育科目(「実践型水辺環境学及び演習」、「タイ国カセサート大学特別コース」、「ESD学外実習」等)の充実を図ることにより、社会から求められている環境人材の育成に努める。 6 学生キャリア支援の充実 全学、若手研究者キャリア支援センターの協力を得ながらキャリア教育の充実を図る。 また、本学部キャリアサポート室と各学科教員の連携のもと、学生へのきめ細やかなキャリア支援活動を展開する。	1 学部将来構想の検討 ミッションの再定義について、本学部は工学、農学、理学の分野で行い、それぞれの分野での強み、特色などについて点検することができた。学部の将来構想については、当面の課題として、下記の目標「2 入試制度の統一化」を議論し、その記述にあるように、受験生にもわかりやすいように、学部として統一することができた。 2 入試制度の統一化 学科により異なっていたAO入試・推薦入試、及び前期日程個別科目などについて検討し、受験生にもわかりやすいように、前者については、推薦入試(センター試験を課す)に統一し、後者についても3教科4科目に学部として統一することができた。これらは平成27年度入試から実施する。 さらに、グローバル化に対応して平成26年4月入学の国際バカロレア入試を導入し、実施した。 3 勉学意欲の高い受験生の確保 中国・四国地区および兵庫県を中心とした80校への高校訪問の実施した。また、学生募集支援企画(「夢ナビ」)のミニ講義については、28講義から35講義に拡充するとともに、新たな展開として、高校生対象の講義「夢ナビライブ」へ教員3名を派遣したほか、学部・学科の特徴を紹介する「1分動画」による新たな広報活動も実施した。さらに、オープンキャンパス時の保護者対象説明会の開催など、積極的に本学部を情報発信する広報に努めた。また、4月開催の教員研修会において、受験業者による本学部入試の現状分析についての講演会を実施した。このことは、受験生確保に向けた検討を進める上で有用であった。 これらの取組及びこれまでの取組により、一般入試(前期日程)の志願倍率は3.0倍となり、昨年度(3.4倍)と同様、3倍以上を確保することができた。 4 教育の質向上への取組 学生の出口での質保証については、各学科において、卒業認定試験や学生の達成度自己点検の実施等、積極的に取り組むとともに、ピアレビューも実施した。 5 実践型環境教育の充実 「実践型水辺環境学及び演習Ⅰ・Ⅱ」「タイ国カセサート大学GP特別コース」及び「ESD学外実習」の実施を通して環境人材の育成を図った。また、実践型環境教育の充実を図るため、現在1単位の「ESD学外実習」を、来年度から2単位で名称も変更し「ESD実践演習」として開講することを決めた。 6 学生キャリア支援の充実 必修科目「環境理工学入門」や「キャリア形成論」において、学生が卒業後の進路について見通しを持って学生生活が送れるようキャリア教育の充実を図るとともに、本学部キャリアサポート室と各学科就職担当教員が連携し、きめ細かなキャリア支援を行った。平成25年度の就職状況は、就職希望者81人の全員が内定しており(2月末現在)、キャリア支援の成果が現れている。 また就職希望者81人のうち、国家・地方公務員には45人が内定となっている。さらに今年度、国家公務員試験総合職に岡山大学で24人合格したが、そのうち6人が本学部生(卒業生で大学院生1人を含む)である。 本学部の就職率は理系学部で全国25位以内を5年間維持しており、昨年度の就職率は理工系学部で全国1位にランクされた。これは、上述の取組の成果として評価できる。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 志願倍率：一般入試(前期日程) 2.5倍 就職率：95%以上(現状維持を目標)	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 1 大学院と連携して、質の高い課題研究を指導することにより、本学部の研究成果を広く社会に還元する。	1. 大学院と連携して、卒業論文の作成等について、質の高い課題研究を指導することに努めた。 また、本学部教員の教育・研究活動状況を広報するため、環境理工学部研究報告には、著書、原著論文、総説、研究受賞等、博士論文指導などについて全教員の業績のほかにも、卒業論文のリストも掲載し、本学部研究報告を電子データにより発刊し、学部HPにも掲載した。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 1 オープンキャンパス、高大連携によるキャンパス訪問、高校への出張講義、スーパーサイエンスハイスクール校への支援協力を通じて、地域の高等学校等との連携を図る。 2 公開講座等を通じて地域住民への貢献を行う。 3 免許更新制度等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。 4 前述の実践型環境教育の実施を通して、地域行政機関や地域社会への社会貢献を行うとともに、タイ国との国際交流を図る。	1 前述の高校訪問の実施により連携を図った他、教員17人の高等学校への講師派遣、17校の高等学校の大学訪問受入やスーパーサイエンス校への事業協力等により、地域の高等学校との連携を深めた。 2 今年度も公開講座を継続実施することにより、環境学の役割や魅力を社会に対して伝えることができた。 3 免許状更新講習の講義を8講座開講し、教員の知識向上に協力することができた。 4 前述の実践型環境教育の実施により、岡山市環境保全課やNPO法人と協力して地域貢献を果たすと同時に、タイ国カセサート大学との交流により国際貢献についても大いにその役割を果たすことができた。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
教育、研究、社会貢献の3領域について、目標の達成状況は良好であったと評価している。とくに、教育領域における受験生の確保について、一般入試(前期日程)の志願倍率は昨年度に続き今年度も3倍を確保することができた。これは、これまでの高校訪問などの広報活動、夢ナビ企画による各種広報などの総合的な成果とも評価できるが、今後に向けて、今年度の分析を行うとともに、本学部の認知度をさらに高めるための方策についても引き続き検討していきたい。 さらに、「学生キャリア教育の充実」に関しても、就職率は良好であり、当初の目標は達成できたと考えている。本学部の就職率は全国的にも理系でトップクラスを維持しており、それにはキャリアサポート室の貢献が大であるが、就職支援/学生支援については今後とも同室と各学科とが連携した形でその充実を図っていきたい。 実践型教育やJABEE認定継続も本学部の特徴の一つであり、今後とも充実するよう取り組みたい。	